

特集

トップが明かす、

社員に感動したその瞬間とき

——「君がいてくれてよかった」この一言を目指せ！

どの企業にも、社長が「あの人がいてくれないと、うちの会社は回らない」と感じている社員がいるものだ。そのような「宝の人財」を、各企業の経営者に紹介いただき、その人となりを示すエピソードを集めた。ここには、「人財とは何か」を考えるヒントがちりばめられている。

構成 フリーライター 山路正晃



明るい社風をつくる
えがた
得難き存在

人財の価値のなかには、売り上げ向上のように数値化できるものもあれば、できないものもある。むしろ、数値に換算できない価値のほうが大きいかもしれない。

そんなことを考えさせるのが、一九九三(平成五)年創業の建築・不動産業 株式会社フジケンホーム(三重県四

日市市、従業員数12名の事例だ。

同社の藤原英雄社長は、社が誇る人財として、経理・総務担当の中西恵美子さんを挙げる。創業三年目に入社した中西さんは、以来二〇年以上にわたって、藤原社長を支えてきた。

じつはフジケンホームでは、創業当時、二人の経理担当者が立て続けに退

社していった経緯がある。当時の同社は資金繰りが大変で、社長があちこちからお金を借りたり、支払先に「少し待ってほしい」と頭を下げに行ったりの繰り返しであったからだ。そんな状況のなか、前任者は資金繰りのストレスに耐えきれず、辞めていったのである。

藤原社長は、前任の経理担当者との

